



2013.1.1

1月 ちとせだより

神戸 YMCA ちとせ幼稚園

新しい年の始まりを、皆さんはどのように迎えられたでしょうか。きっとお正月は家族が集い、子どもの成長が一番感じられる時でしょう。しかし、わが国の将来も決して明るいものと感じられない中では、親は子どもの将来に対して様々な心配や不安を感じているかも知れません。また、親の期待する姿とは程遠い子どもの姿を見て、嘆いているかも知れません。そして、そんな親の不安や心配は、言葉や態度に表れ、それによって子どもの気持ちも揺れ動くものです。

家庭では子どもを甘やかさず、きちんとしつけなければという思いが強すぎると、その言葉も母親というよりは教師のようになり、様々課題を与えたり評価したりしているかも知れません。そんな親に対しても、親に褒められたい、認められたいと思う子どもは親の要求に応じた振る舞いをしようがんばり、ありのままの自分ではいられず、親に気を許すことも、また親に甘えることも出来にくくなります。

また、この親に甘えられない子どもは、幼稚園や学校といった親がいない場面では先生を独占したがって、先生の気を引く行動をとったりすることもよくあります。しかし、その行動の多くは集団生活の中では好ましくない行動であるために、本人が期待する対応はとってもらえない場合も多く、甘えたいという願望も満たされないまま、さらに子どもの心には欲求不満がつることとなります。そしてそういった子どもは、その不満な気持ちを他の子どもに対して意地悪な形でぶつけたり、大人の嫌がる行動をとったりする場合があります。

安心して親に甘えられる子どもは、親からありのままの自分を認めて受け入れられている実感があり、まただからこそ自分自身に自信を持てるのです。まさしくこの自信は、何かが出来るからという自信ではなく、自らの存在そのものに対する自信とさえ言えるでしょう。

そして、何か目に見える目標を達成したというのでもなく、この特別な根拠もない自信があるからこそ、自分の力で考え判断して行動することが出来るのです。そしてその力こそが社会に出て、自分の力で生きていくことが出来る力といっても良いでしょう。

親から愛されているという実感を持ってない、親から信頼されているという実感を持ってない子どもは、常に不安で、自信がありません。幼児期の今こそ、子どもが安心して親に甘えられること、親の前でありのままの姿でいられることの意味を忘れないでいたいと思います。

年主題 「あふれる愛 小さなものととも に 」

1月主題 「なかまとひびきあって」

聖 句 “あなたがたの愛がますます豊かになり、本当に重要なことを見分けられるように。”
(フィリピの信徒への手紙 1章 : 9~10 節)